

アーカイブズ関係機関協議会の紹介

日本アーカイブズ学会の活動

安藤 正人

日本アーカイブズ学会

1. 日本アーカイブズ学会の設立と背景

日本アーカイブズ学会 (The Japan Society for Archival Science, 略称JSAS) は、2003年10月に設立準備大会を開催して設立趣意書を発表したあと、2004年4月24日に学習院大学で設立総会を開き、正式発足した。

学会設立の背景を本格的に語り始めるならば、戦後間もない頃の近世庶民史料調査委員会の活動や1950年代の文部省史料館の設置あたりにまで遡る必要があるだろうが、ここでは学会設立の直接的背景となった近年の動きをいくつか紹介するにとどめたい。

第一に、国文学研究資料館史料館を中心としたアーカイブズ学研究的進展がある。同館は、1980年代半ば以降、「文書館学」「史料管理学」「記録史料学」などの研究を進め、90年代後半には、関連分野の研究者を多数組織して特定研究「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」を実施した。その成果は、最終的に『アーカイブズの科学』上下巻 (柏書房、2003年) にまとめられた。

第二には、文書館・公文書館の専門職員を中心とした「アーカイブズ・インフォメーション研究会」の活動があげられる。この研究会の成果は、青山英幸・安藤正人編著『記録史料の管理と文書館』(北海道大学図書刊行会、

1996年) とアーカイブズ・インフォメーション研究会編『記録史料記述の国際標準』(同前、2001年) に表れている。

第三に、科学研究費補助金による、いくつかのアーカイブズ学関連プロジェクトがある。とりわけ、学習院大学を事務局として2003年度から実施された「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズ・ネットワークの基礎構築にむけての研究」(研究代表者: 高橋利彦学習院大学教授) の役割が大きかった。

学会設立の背景は、もちろん以上にとどまらないが、学会の構想を練り具体的準備を進めたのは、おおむね上記のような研究活動に参加していた人々だったように思う。



日本アーカイブズ学会設立大会

2. 日本アーカイブズ学会の目的と活動

本学会の目的は、「会則」第1条にあるように「アーカイブズに関する調査・研究を行い、わが国におけるアーカイブズ学の進展に寄与すること」に他ならないが、より詳しくは「会則」前文にこうある。

安藤 正人 (あんど う まさひと)

日本アーカイブズ学会副会長

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻教授

私たちは、日本のみならず世界に遺されたアーカイブズ、そして将来のアーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法を研究し、実践するため、この学会を創設することとした。

アーカイブズは、団体、家及び個人が作成し、収受し、保存されてきた記録からなり、手書きや印刷された紙媒体のもの、電磁的記録のもの、そしてオーラルヒストリーなどからなっている。

このアーカイブズに関する科学的研究は、(1)アーカイブズの管理に関する研究、(2)アーカイブズの成立・構造・伝来などに関する研究、(3)アーカイブズの教育・普及に関する研究などから構成されており、歴史学、社会学、情報学など既存の様々な学問分野の学理と連携しつつ、独自の領域をもつものである。この科学的研究は、アーカイブズの保存及び関連する諸課題の解決に資するという役割を担うものでもある。

また、この科学的研究と同時に、アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践を、このアーカイブズの科学的研究に関わるものは求められている。

アーカイブズに関する科学的研究と実践を担うものとしてアーカイブズ学を構築し、アーカイブズの適切な生成、保存、活用による平和で豊かな民主社会の実現に資するため、この会則を制定する。

ここに示されているように、日本アーカイブズ学会は、あくまで純粹の学術研究団体としてアーカイブズ学の科学的研究を推進しつつ、同時に、アーカイブズ学に備わった本来的な目的として「アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践」にも取り組むことを標榜している。

正会員は個人によって構成され（他に団体も受け入れる「賛助会員」がある）、現在420名。その顔触れは、アーカイブズ学、歴史学、

情報学、物理学、建築学など様々な分野の研究者から、文書館・公文書館や博物館・図書館などの職員、企業や行政の記録管理担当者などに及び、実にバラエティーに富んでいる。

学会活動の柱は、「会則」第3条に、(1)研究集会及び総会の開催、(2)機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行、(3)Webサイトの運営、(4)国内外の関係団体・機関との交流、(5)その他必要と認める事業、と定められている。そのうち、(1)(2)(4)について、実績を簡単に紹介しよう。

2.1 研究集会及び総会の開催

2004年4月24日、25日に行われた設立大会以来、毎年4月最後の土曜・日曜に年次大会を開催するのが通例となっている。年次大会では、土曜日に総会と記念講演会、日曜日に自由論題研究発表会と企画研究会を行っている。記念講演会と企画研究会については、後掲の資料を見られたい。

自由論題研究発表会は、文字通り会員の自由な研究発表の場で、公募制をとっている。学術研究団体として、もっとも重要な行事のひとつとして位置づけており、毎年10本前後の研究発表が行われている。

他に、年に2回、テーマを掲げて研究集会を開催している。これまでの研究集会実績は、後掲の資料に掲げた通りである。

2.2 機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行

学会誌『アーカイブズ学研究』を年2回発行している。最新号は第12号（2010年3月）である。またアーカイブズ学関係文献としては、本会と記録管理学会との共同編集による翻訳論文集『入門・アーカイブズの世界 記憶と記録を未来に』（日外アソシエーツ、2006年）がある。

2.3 国内外の関係団体・機関との交流

国内のアーカイブズ関係団体との交流はもとより、日本アーカイブズ学会の幅広い研究対象や多様な会員層を活かして、人文社会系・自然科学系・芸術系など、分野を問わず、様々な学会・機関との学术交流を進め、それらの接着剤のような役割を果たしていきたいと考えている。また2007年に、International Council on Archives (ICA) にカテゴリーB会員として加盟を果たした。国際交流にも力を入れ始めているところである。

日本アーカイブズ学会は、設立6年の若い学会である。皆さまのご支援をお願いしたい。



2009年大会記念講演 (菊池光興氏)

3. データシート

日本アーカイブズ学会事務局

〒190 0014 東京都立川市緑町10 3

国文学研究資料館 高橋実研究室気付

E-mail : office@jsas.info

URL: <http://www.jsas.info/>

お問い合わせは、できるだけ電子メールでお願いします。

会員数 (2010年3月31日現在)

正会員420名 (うち学生55名)

賛助会員17団体

大会記念講演会

2003 (設立準備大会) 安藤正人「戦争とアーカイブズ - 『満州国』 からイラクまで -」、アン・ペダーソン「オーストラリアのアーカイブズ - 1945年から現在までのオーストラリアのアーカイバル・アプローチ序説 -」

2004 (設立大会) エリック・ケテラール「未来の時は過去の時のなかに - 21世紀のアーカイブズ学 -」

2005 ジョーコ・ウトモ「過去・現在・未来の架け橋 - 現代アジアにおけるアーカイブズの役割 -」

2006 上島 有「東寺百合文書からアーカ



2010年大会記念講演 (上川陽子氏)

イブズ学へ - 中世アーカイブズ学への思い -」

2007 樺山紘一「博物館と文書館のあいだ」

2008 石井米雄「歴史研究とアーカイブズ」

2009 菊池光興「国民にひらかれた国立公文書館の構築 - 改革の軌跡と今後の展望 -」

2010 上川陽子「時を貫く記録としての公文書管理の在り方 - 今、国家事業として取り組む」

大会企画研究会

-2004 設立記念シンポジウム「アーカイブズ学を拓く」(報告者; 青山英幸、キム・イッカン、保立道久、永田治樹、水嶋英治)

-2005 「欠くべからざるアーカイブズ、求め

られるアーカイブズ学」(報告者：イ・ヒョンジョン、佐々木和子)

-2006 「アーカイブズ専門職の未来を拓く」(報告者；針谷武志、波多野宏之、高山正也、渡辺浩一)

-2007 「アーカイブズの<力> - 歴史からの検証 - 」(報告者；富善一敏、渡辺佳子、太田富康)

-2008 「アーキビスト資格制度の構築にむけて」(報告者；高橋 実、森本祥子)

-2009 「Archives Japan 50 - アーカイブズ学からの照射」(報告者：太田富康、山崎一郎、清水善仁、児玉優子)

-2010 「公文書管理法がもたらすアーカイブズ学の課題 - レコードスケジュール”を中心に - 」(報告者：石原一則、イム・ジニ)

会誌『アーカイブズ学研究』最新号(2010年3月)

特集1：2008年度第2回研究集会 研究記録のアーカイブズ - 研究過程の検証と新たな情報資源化のために -

佐藤博樹「SSJ データアーカイブの現状と課題 社会調査・データアーカイブ研究センターの活動」

高岩義信「自然科学の研究アーカイブズ 研究記録と説明責任」

大石三紗子「研究集会参加記」

特集2：2009年度第1回研究集会 公文書管理法と専門職問題

岡本信一「公文書管理『新時代』における専門的人材の育成に向けて 米国情報大学院(iSchool)が新しい時代を切り拓く」

安藤福平「アーカイブズ業務と専門職 広島県立文書館20年の体験から」

針谷武志「公文書管理法の成立と文書館専門職養成の役割」

宇野淳子「研究集会参加記」



会誌最新号(12号)表紙